

マイナ救急実証事業

実施期間 R6年8月23日～10月23日

磐田市消防本部警防課



磐田市消防本部

管轄人口 165781人 (R6・10・31)

管轄面積 163.45 Km²

消防本部 1本部 1署 5分遣所

職員数 209人(救命士64人)

受付方法 中東遠消防指令センター
(5消防本部で共同運用)

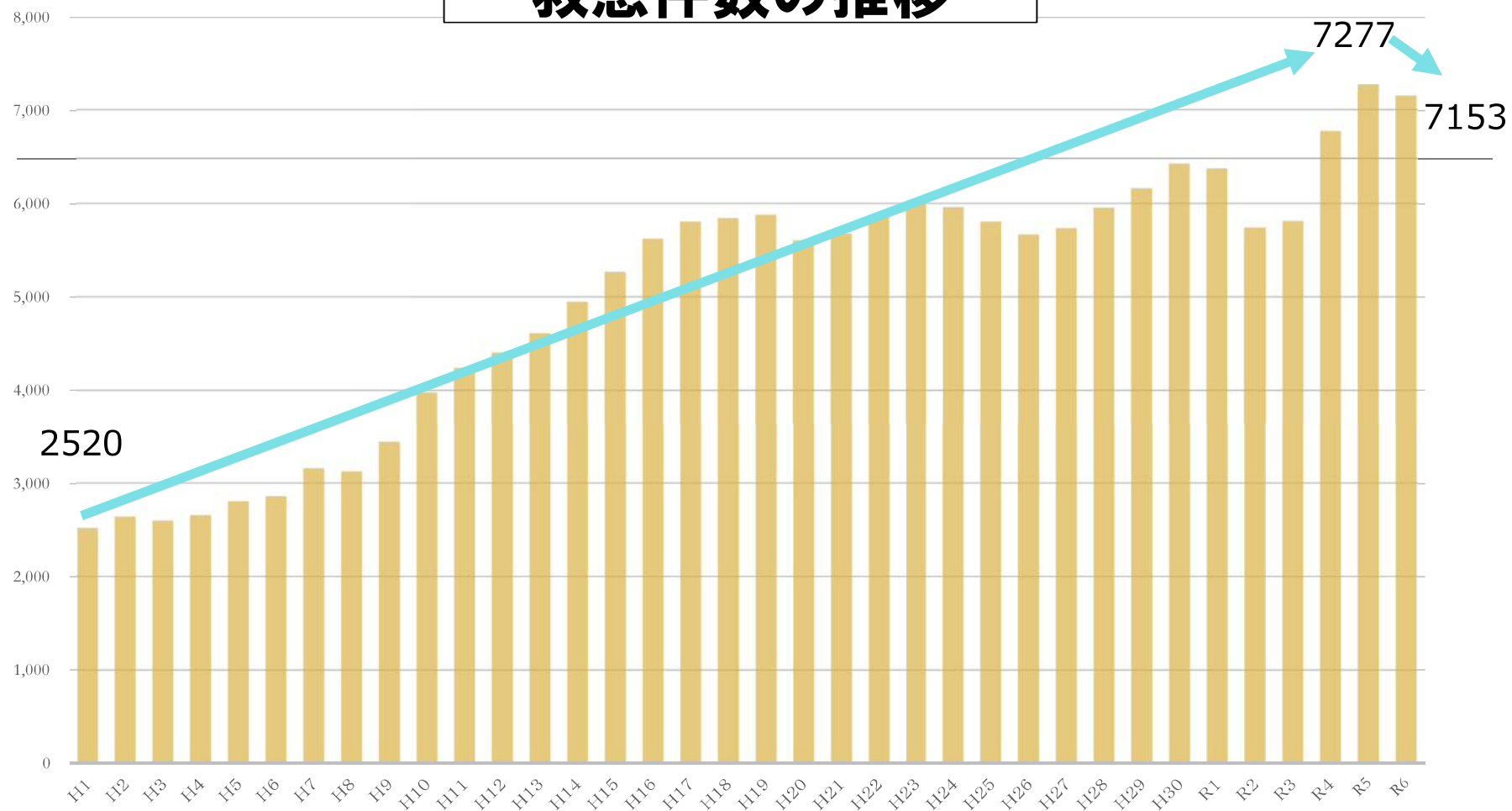
救急隊数 8隊 (1台は非常用救急車)

出場件数 7277件 (令和5年)

7153件 (令和6年)



救急件数の推移



実証事業開始までの流れ

消防庁との窓口は警防課救急企画室

各署所を巡回し事前説明と同意

参加救急隊 8救急隊

事業対象 すべての救急事案

閲覧権限 64名の救命士に付与

救命士が実機を用いて操作確認と訓練

指令センターに協力依頼



実証事業開始までの流れ(消防外)

関係機関

総務課(マイナンバー、個人情報の関係)

財政課(今後の費用について)

福祉政策課(救急の情報収集について)

磐田市立総合病院(協力医療機関)

※事故報告要領の確認等

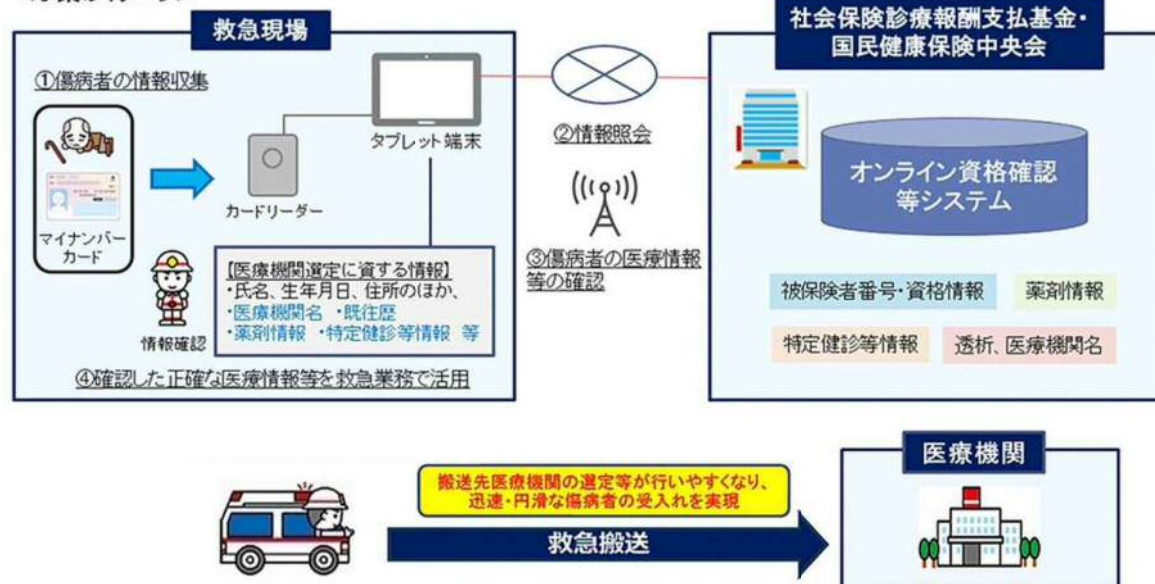
中東遠MC協議会(事業参加報告)

CP課(広報関係)

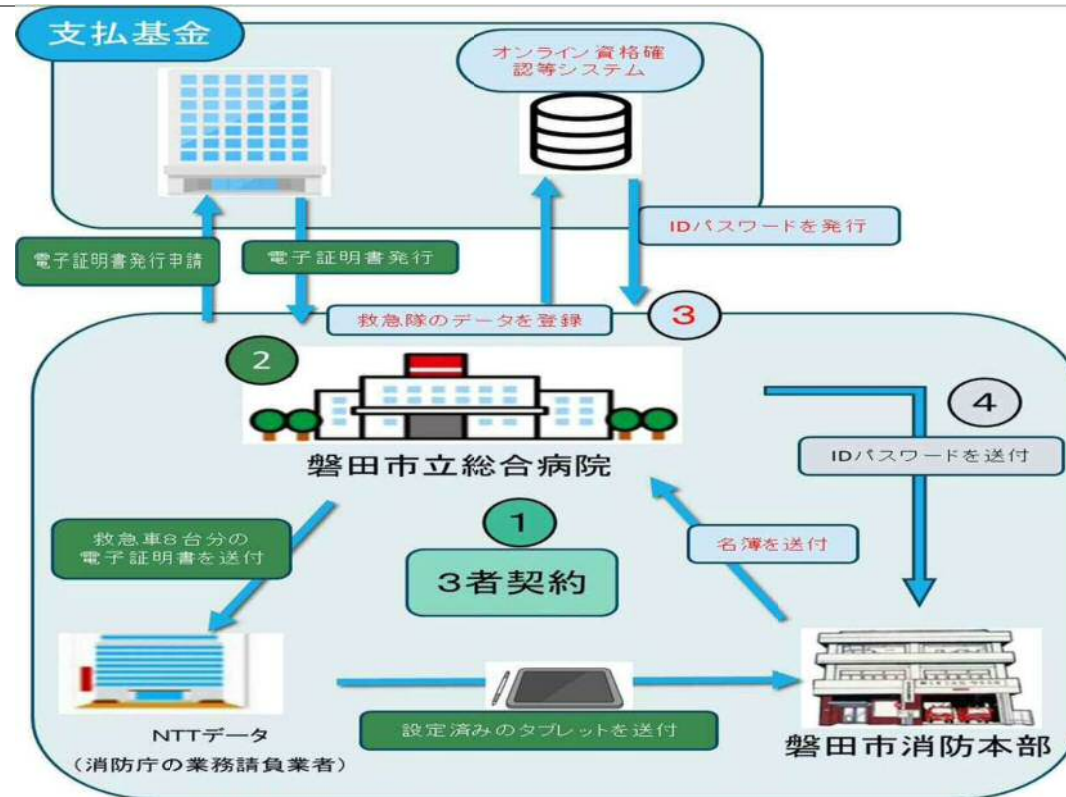
契約検査課

(病院・NTTデータとの契約関係)

<事業のイメージ>



オンライン資格確認システム(利用の流れ)



事前準備での懸念事項

個人情報の取り扱い

磐田病院で受付した患者情報を誤って閲覧する危険あり

複数のパスワード認証への対応

機器の取り扱い

盗難や紛失

現場での他人の目



広報について

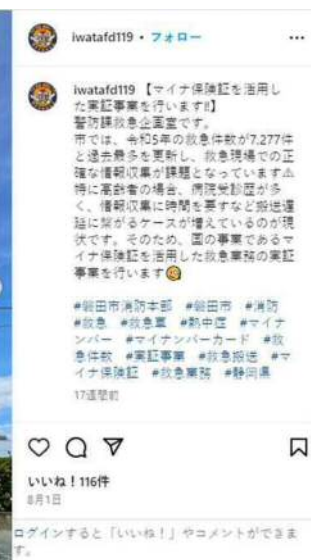
広報いわた



SNS



Yahooニュース



磐田市の実施状況

8月23日～10月23日までのマイナ救急実証事業実施状況

救急搬送件数(A)	$(B) = (A) - (\text{隊長判断による中止} + \text{環境の不具合})$			情報閲覧した割合 (D/A)
	マイナ救急 実施判断件数(B)	$(C) = (B) - (\text{カード不所持} + \text{保険証未登録})$		
		マイナ保険証 所持件数(C)	情報閲覧件数(D) $(D) = (C) - (\text{本人確認} + \text{同意なし})$	
1,090件	975件	97件	95件	8.72%



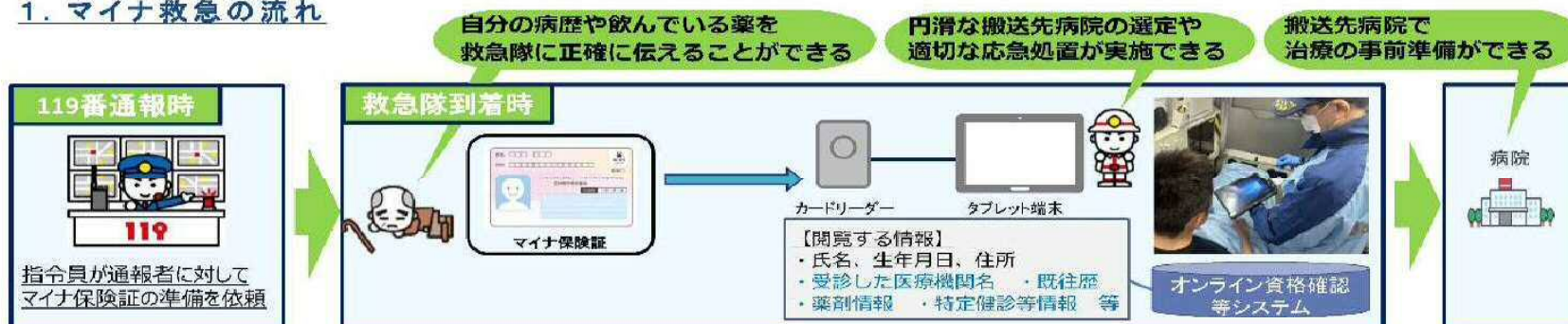
マイナ救急〔マイナンバーカードを活用した救急業務の円滑化〕



事業概要

▶マイナ救急とは、救急隊員が傷病者のマイナ保険証を活用し、病院選定等に資する情報を把握する取組

1. マイナ救急の流れ



2. 令和6年度実証事業の結果

- ・ 67消防本部660隊において、約2ヶ月間の実証を行った。
- ・ マイナ救急により、情報閲覧した件数は**11,398件**。
- ・ 活用事例及び救急隊、傷病者、病院それぞれの声は次ページ以降を参照。

3. 令和6年度補正予算

マイナ救急の全国展開の推進 **20.6億円**

※全国の各消防本部において、救急現場での操作性に優れた専用システムを活用した実証事業を実施

※実証事業の規模 令和6年度 660隊 ⇒ **令和7年度 5,334隊**

4. マイナ救急の広報について

- ・ マイナ救急の認知度向上を図るため、**ショートムービー**を作成し、SNS（YouTube、消防庁X等）で広報を行うとともに、全国の消防本部、都道府県等へ提供。



- ・ 今後、マイナ救急の流れの説明、活用事例の紹介、マイナ保険証の携行の呼びかけ等のため、**政府広報、ポスター、広報誌**等により、**国と自治体とで連携した広報を実施予定。**



マイナ救急 活用事例



マイナ救急 令和6年度実証事業

○救急現場にいた関係者が高齢の夫婦のみだった事例(円滑な病院選定に繋がったケース)

年齢・性別:90歳代 男性

通報内容:傷病者の妻から、自宅で夫がうつ伏せで動けない。

救急隊到着時の現場の状況:傷病者は、うつ伏せ状態のまま動けず、意思の疎通が困難な状態であり、また、通報した妻も、傷病者の病歴や飲んでいるお薬を把握していない状況。

救急隊の活動内容:自宅にあった傷病者のマイナ保険証から、傷病者の通院履歴や薬剤情報を閲覧し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を選定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。

<マイナ救急の有用性>

高齢の夫婦のみで情報把握が困難な事案であったが、マイナ救急を実施することにより、救急隊が正確な情報を把握し、搬送先病院を円滑に選定することができた。



○実家に帰省中で、お薬手帳を所持していなかった事例(円滑な病院選定に繋がったケース)

年齢・性別:50歳代 女性

通報内容:帰省先の実家において、食事中に意識を失い、椅子から床に倒れこんでしまった。

救急隊到着時の現場の状況:傷病者は精神疾患で薬が処方されていたが、帰省中であったためお薬手帳を所持しておらず、飲んでいる薬が分からない状況。

救急隊の活動内容:傷病者が所持していたマイナ保険証から薬剤情報を確認し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を選定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。

<マイナ救急の有用性>

お薬手帳を所持しておらず、薬剤情報不明のため、搬送先医療機関の調整が難航するおそれがあったが、マイナ救急を実施することにより、薬剤情報を確認することができたため、搬送先は初診の医療機関ではあったが、円滑に搬送先医療機関を選定することができた。





マイナ救急 活用事例

FDMA
住民とものに

マイナ救急 令和6年度実証事業

○苦しさのため傷病者の説明が不明確だった事例（かかりつけ医療機関への搬送に繋がったケース）

年齢・性別：60歳代 男性

通報内容：身体全身のだるさがあり、息苦しさが治まらない。

救急隊到着時の現場の状況：傷病者の話にまとまりがなく、詳しい症状を聞くことができなかった。かかりつけ医療機関の記憶もあいまいで、具体的な病歴も本人は覚えていなかった。

救急隊の活動内容：本人からマイナ保険証の提示があり、マイナ救急により、かかりつけ病院と薬剤情報を閲覧。薬剤情報から慢性腎不全ということが判明し、かかりつけ病院に連絡し、搬送した。



＜マイナ救急の有用性＞

傷病者が苦しみにより救急隊に口頭で説明できない状況においても、マイナ救急を実施することにより、かかりつけ病院や薬剤情報を確認することができ、円滑にかかりつけの医療機関へ搬送することができた。

○外出先で意識障害を起こした事例（救急隊の適切な応急処置に繋がったケース）

年齢・性別：60歳代 男性

通報内容：外出先でふらつき、立ち上がることができない。

救急隊到着時の現場の状況：傷病者は意識がはっきりしておらず、会話ができない状態であった。

救急隊の活動内容：なぜ意識障害を起こしているか分からない状況であったが、傷病者本人が所持していたマイナ保険証から医療情報を確認したところ、既往歴として糖尿病であることが判明し、ブドウ糖を投与した。搬送中に意識レベルが回復し、病院到着時には会話可能な状態まで回復した。



＜マイナ救急の有用性＞

既往歴から適切な応急処置を実施することができ、搬送先の医療機関に到着したときまでに、会話が可能な状態まで回復した。



マイナ救急 活用事例



マイナ救急 令和6年度実証事業

○自転車で転倒し、外傷を負った事例(速やかな病院連絡に繋がったケース)

年齢・性別: 50歳代 男性

通報内容: 自転車を運転中に転倒した。

救急隊到着時の現場の状況: 生命を脅かす外傷は確認できなかったが、持病など別の要因により転倒した可能性もあるため、既往歴等を確認する必要があった。

救急隊の活動内容: 隊長が詳細な全身観察、受傷した部位の観察及び問診を行うのと並行して、別の隊員が持病が無いかどうかマイナ救急により既往歴等を確認。傷病者に直接質問することなく、マイナ救急で既往歴等がないことが確認できたため、速やかに医療機関に連絡した。



<マイナ救急の有用性>

傷病者の観察や問診と並行して、マイナ救急で既往歴等を確認できたため、不必要な質問をせずに、速やかな病院連絡に繋がった。

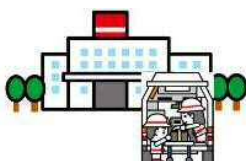
○意識がもうろうとし、意思疎通困難であった事例(医療機関の事前準備に繋がったケース)

年齢・性別: 70歳代 男性

通報内容: 足がふらつき、意識もうろうの状態

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は意識もうろうの状態であり、意思疎通が困難な状況。

救急隊の活動内容: マイナ救急により確認できた薬剤情報から、消化管出血による貧血を疑い、緊急内視鏡及び緊急輸血可能な医療機関を選定し搬送した。



<マイナ救急の有用性>

マイナ救急を実施することにより、飲んでいる薬が分かり、その薬の効果や症状から病名を推測し、適切な医療機関を選定することができた。また、搬送先の医師からは、「服薬情報を事前に得られたため、緊急オペなどの事前準備ができた」と感嘆された。



救急隊の声

- 高齢の夫婦のみで、情報収集が困難だったが、マイナ保険証から情報が取得できた。
- 外出先の事故でお薬手帳を所持していなかったが、薬剤情報が分かった。
- 頭痛の症状が強く会話が困難であったため、マイナ保険証から情報を取得することで、傷病者の負担を軽減できた。
- 意識障害で、情報把握が困難だったが、マイナ救急で既往歴が分かったので、適切な応急処置ができた。
- 意識清明だったため、本人から情報を聴取できたが、マイナ救急で得られた情報と一致していることを確認でき、情報の正確性の裏付けができた。



- ・年齢別でみると、高齢者の件数が7,134件(62.6%)と、最も多かった。
→引き続き、**高齢者に対する広報が重要**。
- ・発生場所別でみると、住宅の件数が8,475件(74.4%)、外出先が2,361件(20.7%)となった。
→実証事業においては、マイナ保険証を準備しやすい住宅でのマイナ救急実施率が高かったが、外出先の事故でも有用性が確認されていることから、**マイナ保険証の携行を呼びかけていくことが重要**。
- ・意識不明等・意思疎通が困難な場合に情報閲覧した件数は839件(7.4%)。
→特に**意識不明等・意思疎通が困難な場合にはマイナ救急の有用性が高い**ほか、意識清明な事案であっても、傷病者の負担軽減や情報の正確性の裏付けに繋がることが分かった。



マイナ救急 傷病者の声、病院の声

FDMA
住民とともに

マイナ救急 令和6年度実証事業



傷病者の声

- マイナ保険証で、**緊急時に役立つ**情報が得られるのは、とても良い取組ですね。
- 過去に受診したことがある病院や服用している薬の情報も記録として残るので、緊急時に便利だと感じました。
- マイナ救急については**広報誌**で事前に知っていた。**お薬手帳が見つからず、マイナ保険証が役に立って**良かった
- 糖尿病の持病があり、意識がなくなる可能性もあったので、**持病が伝えられて**助かりました。
- **慌てて、思い出せない**情報もマイナ救急で伝えられるので、助かりました。
- マイナ救急について**ラジオ**で知った。有効活用できるということで、マイナバーカードを作成したので、実証に協力しました。

病院の声

- 傷病者の氏名、年齢等の特定に要する時間が減り、**診療に重きを置く**ことができた。
- **正確な情報は治療に必須**なので確実に役立ちます。**重複処方の回避にも役立つ**と考えます。
- 飲んでいる薬が事前に分かったので、**緊急オペの事前準備**ができた。
- **意識のない患者の場合、救急隊や家族の情報が頼り**。独居や身寄りのない高齢者患者が増えているので、**事前に情報が分かる**のはありがたかった。



- ・傷病者や病院からも、マイナ救急の有用性の声があった。
- ・傷病者が広報誌やラジオで、実証事業について事前に把握していたため、協力を得やすかった。
→ **広報誌やラジオをはじめ、様々な媒体を活用した広報が必要。**

令和7年度も実証事業を行います

1 実証事業の実施消防本部等

- ・実施消防本部：全国すべての消防本部（720 消防本部）
- ・実施救急隊数：5,334 隊

2 実証事業の開始時期

- ・昨年からマイナ救急実証事業を継続する救急隊（660 隊）
令和7年4月以降、準備が整った消防本部から順次開始する予定
- ・新たにマイナ救急実証事業に参加する救急隊（4,674 隊）
4月中に開始時期を別途お知らせする予定

救急現場での操作性に
優れた専用システムを活用

3 期待される主な効果

傷病者の負担軽減に繋がるほか、観察結果・症状（現病歴）とマイナ保険証を活用して得られた情報（受診歴・診療情報・薬剤情報・特定健診情報等）から総合的に判断し、傷病者に適する搬送先医療機関の選定等に効果が期待できる。



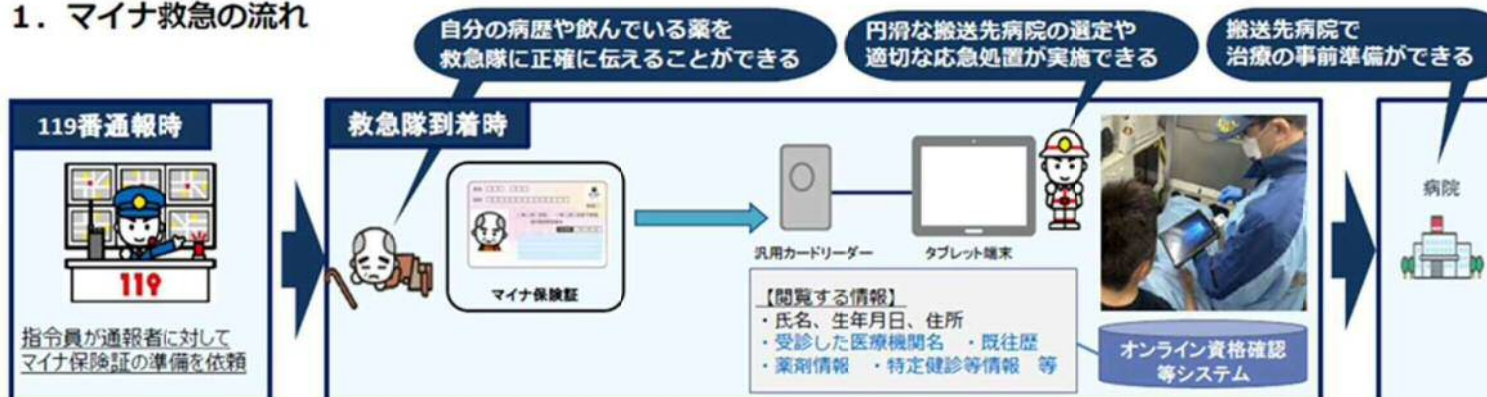
「あなたの命を守るマイナ救急」
マイナ保険証の携行をお願いします



実証事業イメージ図(案)

参考資料2

1. マイナ救急の流れ



2. 実証事業の活動イメージ

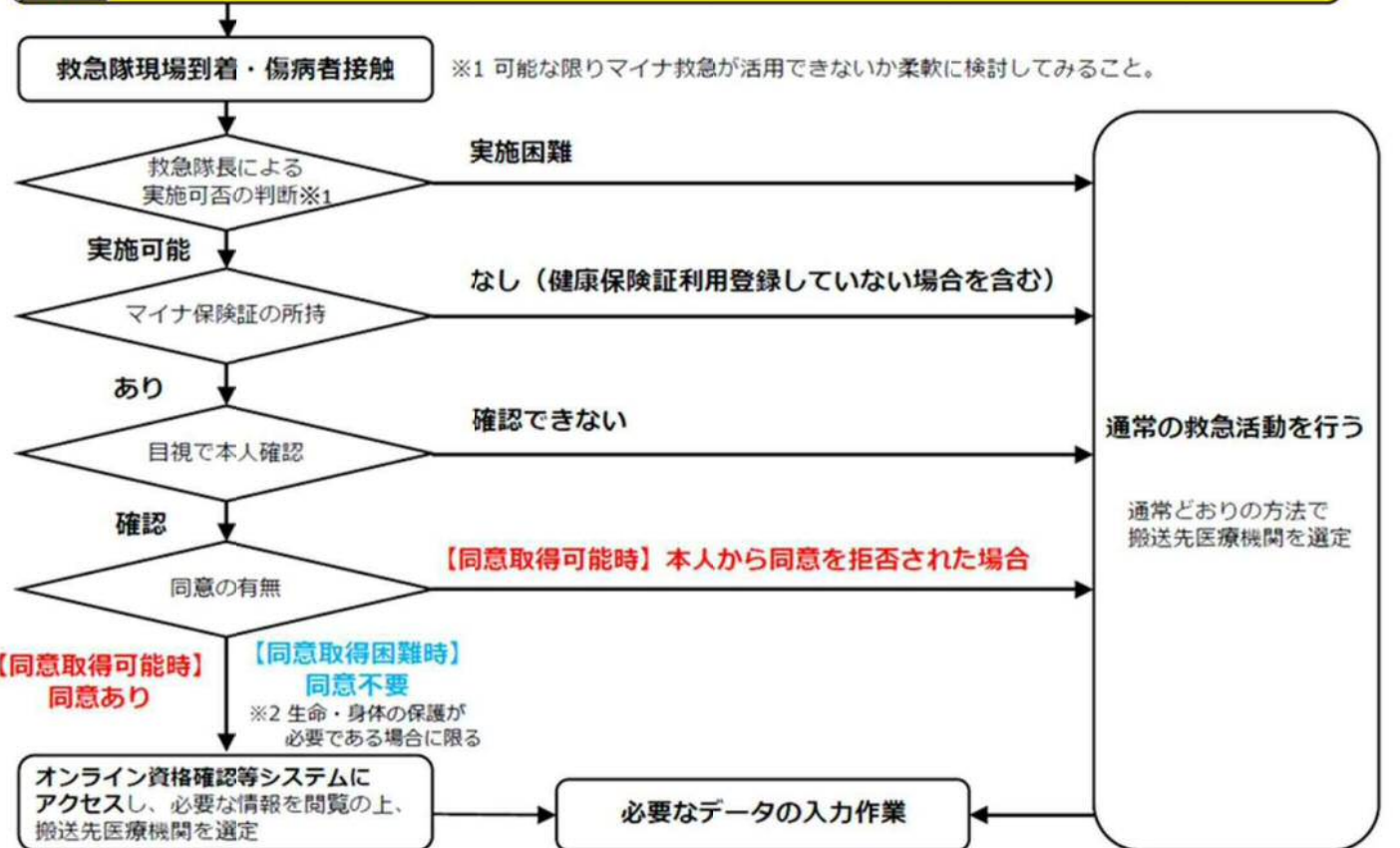


実証事業における救急隊の活動フローチャート（案）

参考資料 3



119番通報の受電時、指令員等は通報者に傷病者のマイナ保険証の準備を依頼する。



ありがとうございました

スライドは以上です